SOU 奏

Early Summer 2022

JTB 感動のそばに、いつも。

音楽は世界共通の
コミュニケーションツール

地球上の国々には、さまざまな人種・言語・文化の壁が存在します。
しかし、音楽にはそのような壁を乗り越えていく、浸透していくような
大きな力があるようです。
奏でられる美しいメロディーは、言葉が通じない人同士であっても
感動と理解を分かち合うことができるのです。
国際交流が活発になるなか、
音楽は大切なコミュニケーション ツール。
JTBは、心の豊かにするお手伝いをいたします。

JTB大阪第二事業部
〒541−0056
大阪市中央区久太郎 2-1-25(JTBビル12階)
TEL.06(6260)0150(代)　FAX.06(6260)0178
担当:岡田 悠

VOL. 57

CONTENTS

1 インタビュー　打楽器集団 男群(おぐん)に聞く!
4 主催公演レポート
5 クラシック音楽とマンガ
～ページをめくるたびにきこえてくるアンサンブル～
7 室内楽あるある vol.3 秋元孝介(葵トリオ)
9 楽器工房探訪 vol.3 ヤマハ掛川工場(ピアノ)
11 世界のアンサンブル事情 vol.3 吉葉景子(コトアルト／二十五絃箏)
13 世界の民族楽器 音の出し方〈似た者同士〉 vol.3
15 世界のコンクール ～ウィグモアホール国際弦楽四重奏コンクール
17 イラスト・コミック 一人の音楽家として、願う平和

編集・発行／公益財団法人 日本室内楽振興財団
〒540-8510　大阪市中央区城見1丁目3-50
TEL.06-6947-2183　FAX.06-6947-2198
URL　http://www.jcmf.or.jp

第8回大阪国際室内楽フェスタ 銅賞！

打楽器集団 男群（だんぐん）に聞く！

大阪国際室内楽フェスタを最も研究し尽くしたオトコたちが今年のグランプリ・コンサート代替公演2022に出演！

あらゆる編成の室内楽の団体が参加できる「大阪国際室内楽フェスタ」。この「フェスタ」を知り尽くした団体と言えば、打楽器集団「男群」だろう!驚くなかれ、彼らは過去9回中4回も出場している。そしてこの度、グランプリコンサート代替公演2022に登場することになったのだ！この日は男群のメンバー12人の中から、リーダーの山澤洋之さんをはじめ、西窪峰人さん、齋藤伸也さん、田中まさよしさんの4名が座談会に参加。打楽器や男群、フェスタの秘密、そしてグランプリコンサート代替公演への意気込みを伺いました。

左からリーダー山澤洋之さん、西窪峰人さん
齋藤伸也さん、田中まさよしさん

結成して早20年！

—男群について、教えてください！

山澤　私たち男群は、男性だけの打楽器アンサンブルです。

西窪　皆、神奈川県川崎市にある洗足音楽学園大学の打楽器専攻の卒業生です。現在はメンバーが12名います！

山澤　私たちは、洗足学園音楽大学の打楽器専攻の教授であった岡田知之先生に師事していました。ご自身でも打楽器アンサンブルを主宰されている岡田先生から、男群を始めるときに、『最低でも10年、踏ん張りなさい』というお言葉をいただきました。10年、10年と思って頑張っていましたが、なんと結成から20年を超えました。

使用楽器は100種類!? 打楽器アンサンブルの世界

—まずは打楽器について教えて下さい。男群の公演写真やコンクールの写真を拝見すると、舞台にはたくさんの楽器が置かれていますね。打楽器奏者というと、楽器奏者のなかで最も多彩な楽器を扱うイメージがありますが…

西窪　「打楽器6人のために作られた曲」というものはとても少ないです。なので、男群のコンサートでは、メンバーが編曲した楽曲を演奏することが多いです。毎回100種類程度の楽器を使用しています。

—100種類！フェスタの時も100種類くらいの楽器を…？

山澤　いいえ！フェスタの時はそれ以上の数を…もう何種類かわからないくらい。

齋藤　フェスタの時は、自分たちの表現したい音を突き詰め、思い描く音色が出る楽器を探しました。

西窪　実は、メニューイン金賞の賞金をいただけても赤字になってしまうくらいかかっていましたね(笑)

—たくさんの種類がある打楽器ですが、それぞれ〝専門〟があるのでしょうか？

山澤　打楽器には、大きく分けて2種類、マリンバのように音階がある鍵盤打楽器と、ドラムのようにリズムを刻む楽器があります。男群は、基本的にみんななんでも演奏します！

—鍵盤打楽器が得意な方！

山澤・西窪・齋藤　はーい!!!

西窪　私は元々、ピアノをやっていました。

齋藤　私も同じくピアノをやっていました。大太鼓をやりたくて吹奏楽部に入ったら、ピアノが出来るので鍵盤打楽器になりました(笑)

—リズム楽器が得意な方！

田中　はい！私、実は一時期男群を離れ、海外で打楽器の修行をしていたこともあります。世界各国に民族打楽器はありますが、特に生活に息づいてるで〝呼吸するよう〟に打楽器を奏でる、アフリカの人々の音楽にはとても影響を受けました。

山澤　男群に新しい風を吹き込んでくれました。

田中　素敵な楽器との出会いがあると、すぐに使ってみたくなります。ツアーに行くと、現地で楽器を仕入れて、すぐに演奏会で使用してみることもありますよ(笑)

山澤　ツアー中に、新しい音色が加えられてびっくりすることもありますね(笑)

奏者が感じる、打楽器の魅力

—男群の皆さんが感じる打楽器の魅力とはどんなところにありますか？

山澤　歌ったり、叩いたり、ということは人間の本能的な部分に直結しているのではないかと思います。だからこそ感情に訴えかけることが出来る楽器なのだと思います。

田中　自分の「叩く」という行動が、直結して音楽となる。叩くことそのものへの喜びがあるのが、打楽器ですね。

齋藤　演奏者にとっても、叩いたときに心地いい感触、ダメな感触があります。その心地いい感触が得られた時には、〝あ！楽しい！〟という喜びがあります。

西窪　そして、音だけでなく振動も感じることが出来る楽器です。聴くときは、是非振動も感じてほしいと思っています。

最多4回出場！「フェスタ」の魅力

—ではフェスタに出ようと思ったきっかけは？

山澤・西窪　実は私たち二人は第3回大阪国際室内楽フェスタでメニューイン金賞だった、パーカッション・アンサンブル「バックビート」をお手伝いをしていました。その時、初めてフェスタの存在を知りました。

山澤　そもそも打楽器アンサンブルが出場できるコンクールというのは、とても少ないんです。そのような中、楽器の制限や課題曲がなく、そしてなんと審査員は〝聴衆〟!こんなユニークで、フェアなコンクールは無い！と思いました。

西窪　実際に参加してみると、様々な国・

地域からの参加団体がいて、思っていた以上に大ごとでした(笑)

山澤　初めての出場でファイナルラウンドまで進むことができ、手ごたえを感じました。そこから、男群の挑戦が始まりました。

「フェスタ」とは25分の舞台芸術

―男群は、最も「大阪国際室内楽フェスタ」を研究しつくした団体と言っても過言ではないのでは?

第8回大阪国際室内楽フェスタでは銅賞を受賞した。

山澤　そうかもしれませんね(笑)

西窪　何回も出場すると、入賞する団体に共通するルールが見えてくるんです。

―共通点とは?

山澤　それは、〝25分のステージ〟(*)としていかに魅せられるか。1曲1曲の演奏の完成度を競う〝コンクール〟と異なり、「フェスタ」はいかにお客様とともに25分のステージを楽しめるか、というところにポイントがありました。

西窪　曲の合間1秒も、審査の対象となる。これは「フェスタ」ならでは、だと思います。

―なるほど!だから男群のコンサートでの楽器の転換はスムーズなわけですね!グランプリ・コンサートでは演奏はもちろんのこと、演奏以外にも注目です!

全国へ音楽の楽しさを届ける!

―それでは最後に、グランプリコンサート代替公演2022への意気込みをお願いします。

田中　まずは心をまっさらにして、「楽器がいっぱいあるな」「音がいっぱい」「振動がすごい」といった打楽器の世界を堪能してください。

齋藤　ステージはナマモノです。私たちも何が起こるかわかりません!ぜひそのライブ感を楽しんでいただければ嬉しいです。

西窪　メンバーみんなで体調管理をしっかりして、全国の皆様に男群のコンサートをお届けしたいと思います!

山澤　音楽が出来る喜びを、会場で皆様と共有できればと思います。

一同　会場で皆様にお会いできるのを楽しみにしております!

男群の奏でる打楽器の世界と振動を、是非会場で感じてほしい!

男群の皆様、ありがとうございました!

*「フェスタ」は、年齢や国・地域、楽器・課題曲などの制限はない。1団体あたり25分間の制限の中で自由にプログラムを組み、演奏を行う。

打楽器集団 男群(おぐん)

1998年、洗足学園音楽大学の男子学生5人により結成。ムジカコスモコンサート「冬」(現:パーカッションフェスタ)にてデビュー。この時の演奏曲「オグンバダグリス」(C.ラオス作曲)より団体名がとられた。現在のメンバーは12名。男性だけによる豪快なアフリカンパーカッションアンサンブルから、繊細なマリンバ四重奏まで多彩な音楽性によって繰り広げられる数々のレパートリーは、多方面より支持を受ける。また「作・編曲活動」は団の大きな特色となっており、従来の打楽器アンサンブルの枠にとらわれない自由な発想による作品を多数発表、及び楽譜出版されている。大阪国際室内楽フェスタでは、第5回(2005)・第6回(2008)と連続で予選を通過し、遂に第8回(2014)に銅賞を受賞、フェスタ史上初の日本人団体による入賞を果たす。2016年、2021年、国内の打楽器アンサンブルグループとしては異例となる、全て自主公演での全国ツアーを実施、計26公演を開催。

打楽器集団「男群」公式ホームページ:https://www.o-gun.net/

グランプリコンサート代替公演2022

打楽器集団男群 全国ツアー

2022年11月7日(月)
大阪・住友生命いずみホール

ほか静岡・宮崎・大分・熊本・鳥取・富山・東京・三重で開催予定　詳細は8月初旬発表!

お問合せ:日本室内楽振興財団
06-6947-2184

日本室内楽振興財団 主催公演レポート

文:後藤彩子(ヴィオラ奏者/元シューマン・クァルテット)

2022.2/12(土)14:00開演　クァルテット・エクセルシオ with 後藤彩子　あいおいニッセイ同和損保 ザ・フェニックスホール

◆出演
クァルテット・エクセルシオ
西野ゆか、北見春菜(以上ヴァイオリン)
吉田有紀子(ヴィオラ)
大友肇(チェロ)
後藤彩子(ヴィオラ)

◆曲目
ベートーヴェン:
弦楽四重奏曲 第2番 ト長調 op.18-2
シューベルト:
弦楽四重奏曲 第12番 ハ短調 D703「断章」
望月京:
Boids(2018)
Boids again(2020)
※世界初演 第10回大阪国際室内楽コンクール委嘱作
メンデルスゾーン:
弦楽五重奏曲 第2番 変ロ長調 op.87

©松浦隆

「クァルテット・エクセルシオ」、お名前はもちろん存じていましたが演奏を聴いた機会がありませんでした。同世代の音楽仲間は、憧れの音楽家と口を揃えて言うので、共演の話に喜びと緊張感が高まりました。

リハーサルは演奏会の数ヶ月前と前日のみ。自身もカルテットを組んでいたのでよくわかるのですが、長年一緒に弾いているチームの響きというのは本当に特別なもので、少ない時間で中に入っていけるのか少し不安でした。ですがその気持ちはリハーサルより前にすんなり溶けてゆきました。それは同じヴィオラ奏者の吉田さんからの丁寧に製本された楽譜、そして同封されたお手紙のおかげです。綺麗な字でかかれており、優しさが滲み出ていました。このような方々となら「対話」できるに決まっているのだから、その会話(響き)を感じとり受け入れ、耳を傾ければきっとよい音楽になるだろうと楽しみになりました。今でも本番で使用した楽譜にお手紙を挟んで保管しています。

初めてお会いした印象は、まるで仲の良い兄妹。リハーサル中も和やかで、エクセルシオ家と後藤家のおうちの味付けお弁当を見せ合って交換しているような、本当にハートフルな現場でした!演奏はワクワクばかりで走り抜け、舞台の上で本当の信頼感がうまれました。客席からもメロディ上を共に歩んでいるかの様な気配を感じられました。公演後の舞台袖に冷えたビールが5本用意されており、スタッフの粋なはからいにメンバー全員で笑いました。私はドイツ留学の習慣でその場ですぐに飲み干してしまいましたが、皆さんは帰路の新幹線の中で飲まれたそうです。次回こそは演奏だけでなく公演後の会話もビールも一緒に味わいたいですね!

作曲家望月京さんを囲んで

2022.2/25(金)11:00-11:45　こどもクラシックミュージックアトリエ　住友生命いずみホール

未就学児の親子を対象とした事前応募によるご招待公演
◆対象:未就学児の親子
◆出演:上敷領藍子(ヴァイオリン)
相原瞳(ヴァイオリン)
後藤彩子(ヴィオラ)
佐藤響(チェロ)

この公演は調査研究事業「子ども向け音楽プログラムの開発」の一環として開催しました。

室内楽の楽しみを子供達に伝える研究をしないかとお誘いいただいた時、自分でいうのもなんですが、我こそが適任と思ったほど。私が室内楽を愛する室内楽奏者で3児の子育て真っ最中、子供達の側に芸術がある未来を心から望んでいるからです。

これほど聴衆を意識してプログラムを考えた事はなく、工夫が多すぎて練習がとても大変な内容に。演奏だけでなく顔芸含め芸達者な共演者、惜しみなくアドバイス出して一丸となれたスタッフの皆様に感謝しています。

チラシやチケットにもこだわりました。一見コンサートのチラシに見えない楽しげなデザイン。チケットは演奏会の前も後も楽しめるような仕掛けつき。たかがチケット1枚ですが、ワクワクさせたいという心遣いは伝わるのではないでしょうか。

お客様はバックステージから入場して、奏者と同じ舞台上で聴いていただきました。コンサートの楽しさだけでなく緊張感も共有も一緒に共有できたと思います。

聴衆として自由でいられるコツをお伝えしながら、性格も異なり楽器の特徴がわかる曲、リズム遊びなど色々弾いたのですが、私の大好きな絵本と音楽のプログラムもありました。今回は音楽が主役になるよう心がけ、オリジナル楽曲を使用。ヴィオラ弾きの私がオリジナルソングを天下のいずみホールで披露する日がくるとは考えた事もありませんでした(笑)。コンサートのあと子供達が歌を口ずさんでくれていたら嬉しいです。

ただ音楽や言葉を浴びせるのではなく、常に想像を促すこと、質問を投げかけることで子供達が自ずと音楽を面白がれるスイッチを押せるのではないかと期待し、これからもスペシャルなコンサートを開催してゆきたいと私自身もワクワクしております。

クラシック音楽とマンガ

ページをめくるたびにきこえてくるアンサンブル

読んでから聴くか、聴いてから読むか？
音楽マンガの森へようこそ！

文・室田尚子（音楽評論家）

昔からマンガ作品には音楽を題材に扱ったものは少なくなく、それらは「音楽マンガ」というジャンルを形づくってきた。特にクラシック音楽は少女マンガに好まれた題材で、1970年代には竹宮惠子の『変奏曲シリーズ』や池田理代子『オルフェウスの窓』、80年代にはくらもちふさこ『いつもポケットにショパン』といったヒット作が生まれている。しかし、マンガ・ファンのみならず世間一般にまで「クラシック音楽っておもしろい！」という印象を与え、一種の社会現象を巻き起こした作品といえば、二ノ宮知子『のだめカンタービレ』をおいて他にないだろう。『のだめ』はアニメ・ドラマ・映画化され、作中に登場した楽曲を集めたCDがリリースされたり、プロの演奏家を中心とした「のだめオーケストラ」が結成されたり、と一大コンテンツになっている。一見、「音」を表現するのは難しいようにみえる「マンガ」だが、そのきこえないはずの「音」をいかに「絵」で表現するか、というところに「音楽マンガ」の醍醐味があるといえる。ここでは最近の音楽マンガの中から、アンサンブルが見事に描かれている作品をご紹介したい。

『Bowing! ボウイング』（2019年～）
きゅっきゅぽん

『Bowing! ボウイング』
著：きゅっきゅぽん
出版社：小学館

ピアノやオーケストラを題材にした作品が多い音楽マンガの中で、弦楽四重奏をテーマにしている斬新な作品。少年漫画誌『ゲッサン』で連載中で、単行本は現在4巻まで発行されている。物語は久保手凛音というヴァイオリンの天才少女が演奏に行き詰まり、田舎の中学校に転校してくるところから始まる。そこで、山の中で野生児のように暮らしながら、実は天才的な耳を持つ少年・朝倉てんと出会い、さらに中学校の音楽教師でヴィオラを弾く小野田純平や、音楽一家に生まれながらコンプレックスを抱くチェリスト五条雪人とともにクァルテットを組む。この作品の注目すべき点は、「音楽」と「自然」が結びついていること。森や草原の中でてんや凛音が演奏するシーンが、息をのむほど美しい。コンサートホールや学校の音楽室ではなく、自然の中に響き渡るハーモニーが紙面から伝わってくるようだ。クァルテットはまだ結成されたばかりで、しかも、てんの家族や凛音の迷いなど様々な問題が山積みだが、必ずや美しいアンサンブルを聴かせてくれるようになるだろう。そのプロセスを一緒に体験できるワクワク感も味わえる。

『四月は君の嘘』（2011年～15年）
新川直司

『四月は君の嘘』
著：新川直司
出版社：講談社

『月刊少年マガジン』に2011年5月号から2015年3月号まで連載され、2013年講談社漫画賞を受賞した『四月は君の嘘』は、2014年秋から15年春にかけてアニメ化され、また2016年には実写映画も公開された大ヒット作品。かつて「神童」と呼ばれ数々のコンクールを総舐めにした有馬公正は、母親の死をきっかけにピアノの音がきこえなくなってしまう。それ以来ピアノを弾くことをやめていた公正が、中学3年生になり同い年のヴァイオリニスト宮園かをりと出会い、音楽の世界に復帰していくという物語。かをりと公正がコンクールで演奏するサン＝サーンスの「序奏とロンド・カプリチオーソ」のほか、ショパンの「エチュード」op.10-4やクライスラーの「愛の悲しみ」など、数々のクラシックの名曲が登場する演奏シーンが見どころだ。音楽によって人が救われ、そして世界が色づいていく（作品では世界を「カラフル」に染め上げていく、と書かれている）という描写が、マンガならではの画面構成で迫ってくる。また、かをりに無理やりコンクールの伴奏にさせられた公正が、舞台でやはりピアノの音だけが聴こえなくなって演奏を中断し、その後もう一度ふたりで弾き始めるシーンからは、音楽家同士の魂のふれあいこそがハーモニーの核となるということがしっかりと伝わってきて鳥肌モノ。ちなみにタイトルの「嘘」とは、実はかをりが公正に隠していたある事情を表しているのだが、未読の方のためにネタバレはやめておく。ぜひ実際に読んで感動に涙してほしい。

『ミュジコフィリア』（2011～12年）
さそうあきら

『ミュジコフィリア』
著：さそうあきら
出版社：双葉社

最後にひとつ、異色の音楽マンガを。天才ピアニストを描いた『神童』やオーケストラの再生をテーマにした『マエストロ！』の作者さそうあきらが、現代音楽に取り組んだ作品。京都芸術大学の美術学部に入学した主人公の漆原朔が、現代音楽の世界に目覚めて自分の音楽を生み出していくというストーリーで、なんと秋吉台現代音楽セミナーで湯浅譲二に出会ったり（！）、川島素晴の作品が学生の作品として登場したりする。西洋楽器と東洋楽器、楽音と非楽音が出会い奏でる音楽はどんなモノなのだろうと想像力がかき立てられる。また作曲者と演奏家とのコラボレーションが新しい音楽の世界を切り拓いていく様はとても面白い。いわゆるクラシック音楽の「アンサンブル」とは異なるものの、これも確かにひとつの「アンサンブル」のすがただ。

『青のオーケストラ』（2017年～）
阿久井真

『青のオーケストラ』
著：阿久井真
出版社：小学館

主人公の青野一は中学3年生。数々のコンクールでヴァイオリンを弾いて優秀な成績を収めていたものの、プロのヴァイオリニストだった父の不倫がきっかけでヴァイオリンをやめている。しかし同い年の秋音律子と出会ったことがきっかけでヴァイオリンを再開。さらに、進学した高校では秋音とともにシンフォニックオーケストラ部に所属し、ヴァイオリン奏者として切磋琢磨していくという物語。同じ「天才少年の挫折と再生」を扱った物語でも『四月は君の嘘』と大きく違うのは、「部活」という身近な題材が扱われている点。実在の千葉県立幕張総合高等学校のシンフォニックオーケストラ部への取材をもとに描かれているというだけあって、初心者にとっての演奏の難しさや部活練習の厳しさなどが細やかに描かれている。そして、大勢で音を「合わせる」というアンサンブルの魅力が爆発するコンサートシーンは「音がきこえる」といわれるほど迫力満点だ。現在も『マンガワン』に連載中で、またアニメ化も決定しているとのこと。演奏シーンを誰が担当するのかにも注目だ。

室内楽奏者あるある Vol.3

室内楽に登場するさまざまな楽器の奏者には、その楽器ならではのキャラクター、アンサンブル内での役割、よく起きる出来事がある!?演奏家が、そんな"室内楽あるある"エピソードをご紹介!

©CODiS

葵トリオ
秋元孝介さん（ピアノ）

Aoi Trio
Kosuke Akimoto
(Piano)

Profile

秋元孝介（葵トリオ）

兵庫県西宮市出身。2018年、葵トリオのピアニストとして、第67回ミュンヘン国際音楽コンクールピアノ三重奏部門で日本人初の優勝。現在は日本とヨーロッパで演奏活動を行いながら、明治安田クオリティオブライフ文化財団海外音楽研修生として、ミュンヘン音楽演劇大学大学院、東京藝術大学大学院音楽研究科博士後期課程にて更なる研鑽を積んでいる。これまでに、第2回ロザリオ・マルシアーノ国際ピアノコンクール 第2位、第10回パデレフスキ国際ピアノコンクール特別賞などを受賞。また葵トリオとして、第28回青山音楽賞「バロックザール賞」、第29回日本製鉄音楽賞を受賞している。
葵トリオウェブサイト：https://aoitrio.com/

©Nikolaj Lund

葵トリオ
ピアノ:秋元孝介　ヴァイオリン:小川響子　チェロ:伊東 裕

Q 葵トリオの特徴、魅力は?

A まるで弦楽四重奏を聴いているかのような、音楽的な一体感だと思います。ピアノ三重奏は慣習としてソリストが3人集まって演奏してきたという歴史的な背景から、どうしても室内楽的には軽視されがちのように思います。しかし、弦楽器と鍵盤楽器という楽器の垣根を越えた一体感から生まれるエネルギーや波動は本当に驚くべきもので、我々はそのような音楽を生み出せるようになりたいと思っています。

Q 室内楽におけるピアニストの役割、とくに葵トリオにおける役割は?

A ピアニストに求められることは主に二つあると思います。まずは、全体の構造を把握して、他の楽器と音響面において共存できる空間を作ることです。例えるならば、絵画の額縁と背景ですね。そしてもう一つは、ソリスティックな表現力です。古典派の室内楽ではピアノパートの比重が他の楽器よりとても高く、頻繁にピアノ協奏曲のような表現を求められます。また、後期ロマン派のロシア音楽の室内楽ではヴィルトゥオーゾ性を求められる作品も少なくありません。これらのことから室内楽を演奏する場合でも、ソリスティックな表現は必要不可欠だと思います。

葵トリオでは各人に役割分担は特になく、フレキシブルで柔軟な演奏を目指しています。もちろんピアノという楽器の特性上、音楽の流れをリードすることはありますが。

演奏以外であえて挙げるとすれば、演奏会のフライヤーの誤字脱字チェックの精度の高さを二人によく褒められます。あとは地理が割と強いほうなので、駅から会場までの先導とか（笑）。

Q ピアニストはソロの活動も多いですが、ソロとアンサンブルのステージ上の気持ちには違いがありますか?

A 一言で言うなら、「没入感」だと思います。ソロは自己と作品との対話であり、そこに深く没入すればするほど、イマジネーションが湧き上がってくる感覚があります。そして同時に孤独を悟り、その孤独が演奏するエネルギーに変わっていく気がします。対してアンサンブルでは、作品の初めから終わりまでを見透かした明晰な集中を意識しています。言わずもがな、アンサンブルで一人だけ没入していると、俯瞰で見たときに作品が崩れてしまいますから。

Q ピアニストならではの性格、行動パターンなどはありますか?

A 本番前の過ごし方は、ピアニストには特徴がありそうですよね。弦楽器奏者や管楽器奏者は音出しをされる方が多いと思いますが、楽屋にピアノがないことも珍しくないので、その時は、楽譜を読むか、寝るか、本を読むか……。僕は軽く確認のために楽譜をパラパラとめくり、一通り見終わったらコーヒーを飲みながら、みなさんが音出ししているのを横目にダラダラしています（笑）。

Q ピアニストならではの「あるある」をお聞かせください。

A やはり楽譜の重さですね。今は電子楽譜で演奏することは珍しくありませんが、僕は紙派なので重たい楽譜を持ち歩いています。「楽器を持たないのだからそれぐらい持ちなよ」って思われるかもしれませんが（笑）。特に室内楽のピアノの楽譜はスコアなのでとにかく重く、葵トリオのツアーで7、8曲持っていくとなると、スーツケースの中身はほとんど楽譜です。使っていくうちに少し剥げてきたり、折れてきたりするのがとても愛おしく、なかなか紙楽譜をやめられずにいます。電子楽譜も興味がありますが、もうしばらくは紙かな……。

Q ピアニストならではのよくある出来事やハプニング、喜びや難しさは?

A 演奏会で、良くも悪くもいろいろな状態のピアノに遭遇することですね。特にヨーロッパではコンサートホール以外にさまざまな会場で演奏するので、かわいそうになるぐらい悲惨なコンディションのピアノに出会うこともあります。まずは弾くよりも何よりもハンカチでホコリや汚れを拭いてあげたいぐらいに……。

葵トリオでは連日コンサートが続くこともあり、いろいろなコンディションのピアノで演奏することは、時に少しストレスに感じることも正直ありますね。ピアノソロだと、そのピアノの都合や特性（音量の振れ幅、特徴的な音色、ウナコルダ※の具合など）を探り、その楽器に寄り添って演奏することになります。しかし弦楽器の二人は毎回同じ楽器なのに、僕は毎回全く違うキャラクターのピアノを使うので、ソロの時のようにピアノの都合だけに寄り添えないこともあります。二人はとてもすばらしい楽器を使用しているので、時には「このピアノではすまない、限界だ!」と投げ出しそうになってしまいます（笑）。それでもできる限りピアノに寄り添って可能性を開花させるべく、同じ曲目でも開場直前まで、ああでもないこうでもないと試していることがほとんどですね。やっぱり最後まで粘ったときのほうがうまくいくような気がします!

※ウナコルダ=音色や音量を変えることのできるソフトペダル

コンサートのウラのウラ！あの楽器ができるまで！

楽器工房探訪 vol.3

文・まるこ（「奏」編集部）

ヤマハ株式会社 掛川工場

〒436-0038 静岡県掛川市領家1480　工場見学に関するお問合せ：0537-24-8069

https://www.yamaha.com/ja/about/locations/piano_factory_tour/

工場見学には、こんな素敵なお土産も♪

クラシック音楽のコンサートでは、必ずと言っていいほど登場するピアノ。弾いているところは見たことがあるけれど、どうやって作られているのか謎に包まれた存在。ピアノと言えば…ヤマハ！

まることやなぎはその秘密を探るべく、国内のピアノの名産地・静岡県にあるヤマハ掛川工場を訪ねた。

工場は一般公開もしている！

まるこ　こんにちは！ここでピアノを製造していると聞き、大阪から来ました！

西郷さん　ヤマハ・ハーモニープラザの西郷です。

ヤマハ掛川工場では、アップライトピアノ、グランドピアノ、コンサートピアノを製造しています。

やなぎ　おお～！どうやって作っているか、見せてもらうことはできますか？

西郷さん　一般公開しているグランドピアノの製造工程をご案内します！

まるこ　ということは読者の皆様も…

西郷さん　ご予約いただければ、無料でご覧いただけます！

木と金属が融合した現代のピアノは、産業革命が生んだ！

現代のピアノの原型である、イタリアのクリストフォリが18世紀初めに発明したピアノのボディには金属は使われていなかった。18世紀後半から19世紀に起きた産業革命を経て、ボディに金属を使うことにより、コンサートホールにも響き渡る大音量かつ繊細な音色と、広い音域を出せるようになった。

まるこ　ピアノは一体いくつの部品でできているのでしょうか？

西郷さん　グランドピアノは、約8千個の部品を組立てて作られています。ヤマハでは、素材・部品から組立てまでを一貫して自社で生産しています。この掛川工場では、約650人のスタッフが働いているんです。

グランドピアノの組立は、張弦、アクション・ハンマーの取り付け、整調・調律・整音など熟練した多くの職人が携わる。その作業に独自の生産技術を組み合わせることによりヤマハならではの高品質なピアノづくりを実現している。グランドピアノは、1日平均30台作られており、1台作るのに、木材の天然乾燥から完成まで1年～1年半かかる。コンサートピアノは、1台作るのに、その倍の約3年かかると教えていただいた。

約230本の鋼鉄の弦を張る張弦工程

鍵盤・アクションの取り付け工程

鍵盤とアクションの動きを整える整調工程

音色や響きのバランスを整える整音工程

インタビュー会場にはコンサートグランドが4台も！

豆知識　18世紀のピアノは、今の白鍵の部分が黒色、黒鍵の部分が白色で、色が反対だった！

やっぱり聞きたい！お値段はいくら？

やなぎ　グランドピアノって"高嶺の花"なイメージですが、おいくらで買えるんでしょうか？

西郷さん　グランドピアノの主力商品は、サイズによって6モデルあります。一番小さいC1Xは約200万円、最も大きいC7Xは約400万円です。

やなぎ　おお…！ではコンサートピアノは…？

西郷さん　今年3月に発売した新型のコンサート・グランドCFXは、2,310万円です！日本室内楽振興財団さんも、1台いかがですか？

やなぎ・まるこ　わお…！

ピアノは、同じように作られていてもそれぞれの個性がある。ヤマハ掛川工場では、グランドピアノの契約をした方が、同じモデルを並べて選定できるサービスもおこなっているそうだ。

新型CFX
（2022年3月発売）

調律師のお仕事 ～ピアノの調律から、新製品の開発まで！

曽我です。

さあ、ここでピアノがご自宅にある読者の皆様にとって身近な存在かもしれない？「調律師」の曽我紀之さんがご登場くださいました！

ヤマハには調律師の学校もある！ ～ヤマハピアノテクニカルアカデミー

ご家庭にピアノがある方にとっては、調律師さんは馴染みがあるだろう。でも、どうやって調律師になるのか…？

曽我さん　このヤマハ掛川工場には、調律師になるための基礎を徹底的に学ぶ1年制の学校"ヤマハピアノテクニカルアカデミー"が併設されています。私もアカデミーの卒業生です。アカデミーを卒業後、ヤマハに就職しました。掛川工場での勤務を経て、調律師として大阪、東京、そしてパリ、ニューヨーク等へ赴任し、そして再び掛川工場に戻ってきました。

曽我さん　私はこの工場では主に「特器」と呼ばれるコンサート用ピアノの、開発や整音作業を行っています。そして、コンサートでも調律をしています。もしかしたら皆様の行かれたコンサートの中にも、私が調律をしたピアノがあるかもしれませんね。

まるこ　私、コンサートの休憩中にステージで調律している曽我さんをお見かけしたことがありますよ♪

調律師あるある～弦が切れる！

様々なアーティストのための調律を行ってきた曽我さん。調律師さんは、どのような点をみているのだろうか。

曽我さん　大体2時間程度をかけて調律をします。主に3点、調律（音程）、整調（弾き心地）、整音（音色）をみます。そのピアノの状態によって何が必要かを見極めます。

沢山のコンサートの現場に立ち会うと、トラブルもあるというが…

曽我さん　弦が切れる、ということが時々あります。なので、調律師はスペアの弦をいつも持ち歩いているんです。休憩時間に素早く弦を張り替えることもあります。

調律師として嬉しい瞬間

曽我さん　演奏会のアンケートなどで「ピアノの音もよかったよ！」と書いていただけることがたまにあり、それはとても嬉しいですね。

調律師の道具箱！

まるこ　調律師さんは、ピアノが弾けることが絶対条件ですか？

曽我さん　そんなことはないですよ！まずはピアノが好きなこと、そして音感があること、でしょうか。私も元々は打楽器をやっていたんです。

曽我さん、西郷さん、ヤマハ掛川工場の皆様、ありがとうございました！ちょっとだけ、ピアノに親近感を持てたような気がしました。読者の皆様も、是非静岡県に行くときは、ヤマハ掛川工場の見学を申込んでみてくださいね♪

世界の音楽において、息のあったアンサンブルは
どんなふうに生み出されるのか。スペシャリストに聞く！

世界の音楽 アンサンブル事情 vol.3

和楽器カルテット「サイタマティック」　左より/三味線：田辺 明　箏・十七絃：神谷 舞
尺八：柴 香山　二十五絃箏：吉葉 景子

Profile

埼玉県鶴ヶ島市出身。4歳よりピアノを始める。幼少より箏の手ほどきを母から受ける。国立音楽大学演奏科鍵盤楽器専修（ピアノ）修了。同大学日本伝統音楽（箏）コース修了。桐朋学園芸術短期大学音楽専攻科、研究生修了。これまでに箏、十七絃、二十五絃箏を野坂操壽、滝田美智子各氏に師事。ピアノを北畠稚、三木香代各氏に師事。第24回賢順記念全国箏曲コンクール奨励賞受賞。イリノイ大学日本館創立20周年記念事業へ参加。NHK FM「邦楽のひととき」出演。箏とヴィオラのデュオ「kotoalto」、二十五絃箏グループ「4plus」、和楽器カルテット「サイタマティック」所属。生田流箏曲松の実會会員。吉葉音楽教室主宰。

〈箏・二十五絃奏者〉
吉葉景子（よしばけいこ）さん

吉葉景子さんは、お母様が自宅で箏教室をしていたため幼少期から箏に親しみ、同時にピアノを学んだ。ピアノを専攻した大学在学中に再び本格的に箏を学び、現在は箏奏者として活動。第8回大阪国際室内楽フェスタには、ヴィオラとのデュオによる「kotoalto（コトアルト）」で参加した。そんな吉葉さんに、箏の魅力について伺った。

聞き手　高坂はる香（音楽ライター）

より自由な表現を求めて開発された二十五絃箏

――箏とはどんな歴史を持つ楽器で、どんな種類があるのでしょうか？

奈良時代に中国から伝わった楽器で、中が空洞の桐の上に絃が張ってあります。調絃は琴柱を動かしておこない、右手の親指、人差し指、中指に爪をつけて絃をはじくことで音を出します。

古くからあるのは十三絃ですが、近代になると、絃の本数が多い楽器も開発されました。有名なのは、宮城道雄さんが考案された十七絃。低音用で絃が太く、長さも2mほどあります。

私が主に演奏しているのは二十五絃箏です。右にあるネジを回すことで、より自由に音程を調整できるようになっています。1991年に箏曲家の野坂惠子先生が考案された楽器です。野坂先生は1969年に二十絃箏を考案され、以来、より豊かな音量や表現のため、絃の数を増やすなど自ら楽器を改造し、試行錯誤されてきました。そうして行き着いた最終形態が、二十五絃箏なのです。

――ピアノを学んだ大学時代、箏に転向されたのはどんなきっかけでしたか？

当時は教職を目指していて、その課程で和楽器を選択する必要があって箏を選んだところ、そこで滝田先生に出会ったことがきっかけです。情熱的で魅力的な先生に導かれ、お箏の本当の楽しさに目覚めました。

子供の頃自宅で箏を弾いていたときは、長時間の正座とギュッとはめる爪で、足と指がとにかく痛く、練習が苦手だったんです。でも大人になり、立奏台を使い椅子に座って演奏する方法もあると知って、問題も解消されました（笑）。

――二十五絃箏の定番レパートリーや作曲家は？

伊福部昭作品は避けて通れないと思います。私が二十五絃箏の演奏を初めて聴いたのは、伊福部の「琵琶行」で、涙が出るくらい感動し、こんな楽器があるなら演奏してみたいと思いました。

楽器の開発から31年、より多くの人に魅力を伝えたい

――普段はどのような編成のアンサンブルでご活動されていますか？

一つは、埼玉出身の奏者による和楽器カルテット「サイタマティック」。十七絃箏、二十五絃箏、三味線、尺八によるアンサンブルです。

もう一つは、二十五絃箏グループの「4plus」。こちらでは伊福部作品もよく取り上げていますが、特に原曲がオーケストラの作品を演奏するときは、弦楽器による息の長いフレーズを減衰するお箏でどう表現するか、さまざまな工夫を繰り返しています。

――ヴィオラの原裕子さんとのデュオ「kotoalto」の特徴、洋楽器と共演する難しさはありますか？

元々原さんが箏とのアンサンブルに興味があり、ご縁がありデュオを組むことになりました。ヴィオラとの共演はこの時が初めてでしたが、お箏は縦のリズムの合図で入るのに対し、弦楽器はすーっと息をする流れの中で入るので、初めは難しかったです。でも慣れていくと、こういう合わせ方は邦楽器の合奏でも生かせると思いました。

「kotoalto」ヴィオラの原 裕子さんと

――フェスタに参加された時の思い出は？

「kotoalto」でちゃんとしたコンサートホールの舞台に立つのは初めてだったため、響きはどうなるのだろうと思いましたが、気持ちよく演奏できました。原さんが暮らすドイツのお友達もコンクール&フェスタに参加されていて、彼らとの国際的な交流も楽しかったです。あと、180cmもある楽器を抱え、人が多くてスピード感のある大阪の街を電車と徒歩で移動するのは、かなり大変でした（笑）。

――良いアンサンブルのために大切なことはなんでしょうか？

作品に対する想いを共有することだと思います。特に伊福部作品を演奏したときは、楽曲の背景にあるもの、作曲時の思いを知らなくては音にすることができないと思いました。

あとは、アンサンブルの相手を立てるということ。昔は自分が弾くフレーズをあれこれ考えてばかりいましたが、どうすると相手が入りやすいかを思いやりながら演奏することこそ、結果的にその曲が生きることにつながると気づきました。

アンサンブルでは、一つの曲でも二度として同じ演奏になることはありません。時間を空けて再演したら全く違う音楽に生まれ変わることもあり、楽しいですね。

――今後のご活動で目標にしていることはありますか？

二十五絃箏ができて今年で31年ですが、野坂先生の想いのこもったこの楽器を、もっと多くの方に知っていただきたいと思っています。そこで、まずは自分が演奏にいった場所ではその良さを伝えられるようでありたいというのが、いつも抱いている目標です。

「4plus」では、作曲家の方と一緒に演奏会を作る活動をしています。奏者が試される難しい作品ができてくることもありますが（笑）、そうして多くの作曲家が二十五絃箏に興味を持ってくださるようになったのは嬉しいですね。

世界の民族楽器紹介 Vol.3

音の出し方〈似た者同士〉

日本語では「作品に命を吹き込む」という表現を使う。〈吹く〉という行為は、人間が生きる上で必要不可欠な〈呼吸〉と深く関わっており、それを利用し、空気を使って音を出すという行為は〈演奏〉の基本にも関わる。

片桐卓也（音楽ライター）

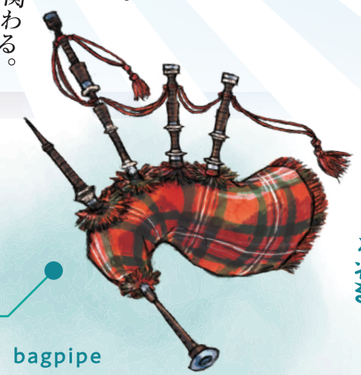
吹く（空気を使う）

空気を吹き込んで音を出す楽器は「気鳴楽器」と呼び、多様な形がある。

モーツァルトも愛好した比較的新しい管楽器

クラリネット clarinet

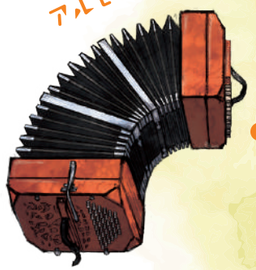
吹奏楽界で最もポピュラーな楽器であるクラリネットは、いわゆる管楽器の中ではかなり新しく開発された楽器である。フランスに古くからあった「シャリュモー」という楽器を、ドイツ人デンナーが18世紀初頭に改良し、クラリネット属を世に出した。マウスピース（口にくわえるパーツ）に葦から作ったリード1枚を差し込んで音を出すので<シングルリード楽器>と呼ばれる（ちなみにオーボエなどはダブルリード）。管の長さが様々で、短いものほど高い音域を出せる。クラシックだけでなく、ロマ（ジプシー）音楽、東欧系ユダヤのクレズマー音楽でも重要な位置を占める。



イギリスでは軍楽隊の音楽にも使われる

バグパイプ bagpipe

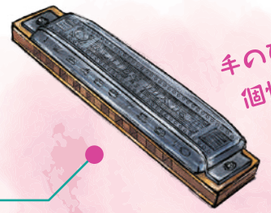
民族衣装キルトを着けた男性が、大きな袋を脇に抱え、口には縦笛のような装置をくわえて、ちょっと牛の遠吠え（?）に似たような音を出しているスコットランドの映像を観たことがあるはず。実はヨーロッパ各地に広く分布しているこの楽器こそバグパイプである。リードが取り付けられた数本の管（パイプ）に、空気袋（バグ）から空気を送り込んで音を出す。フランスでは「ミュゼット」、アイルランドでは「イリアン・パイプ」としても発達した楽器で、複数の音を同時に出せることから、民族舞踊や合唱の伴奏にも使われ、ソロでも演奏されることがある。



ドイツに生まれ、アルゼンチンで発展

バンドネオン bandoneon

アルゼンチンタンゴの演奏には欠かせないのがバンドネオンである。しかし、その発祥は意外にもドイツ。まず19世紀のはじめにウィーンでアコーディオンが開発された。それを知ったドイツ人楽器製作者が故国に帰り、新たに開発したのが同じ蛇腹楽器であるコンサーティナと呼ばれる楽器だった。ドイツ人のハインリヒ・バンドがそれに改良を加えて作ったのが「バンドネオン」だった。それがいつしか南米アルゼンチンへと伝わり、20世紀のはじめ頃からタンゴ音楽に使われて来た。蛇腹を開く時と閉じる時で、出る音が違うので「悪魔の楽器」とも称される。



手のひらサイズだが、個性ある音を出す

ブルースハープ blues harp

1950年代生まれの私たちの世代はリコーダーではなく、小学校の時にまずハーモニカを習った。大正、昭和初期の詩や小説では「口風琴（くちふうきん）」と訳されていることもある。ハーモニカの起源はドイツで、オルガンの調律用に金属製リードを1枚使った笛を作ったのが始まりとも言われている。次第に音の数を増やし、10の穴（吹き口）を持つハーモニカに発展した。さらには半音も出せる物も開発された。単音10穴のハーモニカはアメリカに渡ると、黒人たちの間で演奏されるようになり、ブルースで使われる楽器となった。それがブルースハープの起源。奏法が独特で、意外に難しい。

ウィスキーの瓶を吹いても楽器になる

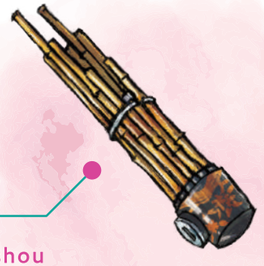
ジャグ jug

アメリカの民俗音楽、特に南部で発展した初期のブルースやジャズの中ではとても珍しい楽器が使われている。洗濯板（ウォッシュボード）、ノコギリ（ミュージカル・ソー）、そしてジャグ（Jug=ウィスキーなどの瓶）などだが、そうした楽器を使ったバンドを総称して<ジャグ・バンド>とも呼ぶ。ジャグはまさにウィスキーなどを入れる瓶の口の部分を吹いて、音を出す。主に低音担当で、演奏者は<ジャグ・ブロワー>と呼ばれる。1960年代のフォーク・ミュージック全盛期に再発見され、現在でも様々なバンドがジャグを楽器として取り入れている。

竹の根元を切って作る日本独自の管楽器

尺八 shakuhachi

竹を素材として使ったリードのない笛は古くからアジア各地にあったようだ。その中のひとつ尺八は7世紀頃の中国で作られ、日本にも伝わって雅楽の楽器として使われていた。それがいったん廃れた後、16世紀頃から普化宗（ふけしゅう）（禅宗）の僧侶が<普化尺八>として使い始めたのが、現在に伝わる尺八である。明治以降は僧侶ではない一般人も演奏が出来るようになり、様々な演奏家が改良を加えて、現在の尺八となったと言われる。手前に4つの穴、背面にはひとつの穴が空いていて、2オクターブ程の音程を出すことが出来る。現代音楽の世界でも使われる。



〈光〉をイメージさせる独特の音色を持つ

笙 shou

17本の竹の管を円形にまとめた楽器で、管それぞれに1枚の金属製リードが付いている。吹き口から空気を吹き込み、鳴らす。息をはいても、吸っても同じ音が出るので、ずっと同じ和音を出し続けることもできる。日本では雅楽で使われる管楽器で、その楽器の姿が羽根を休めている鳳凰に似ていることから、かつては「鳳笙（ほうしょう）」とも呼ばれていた。楽器の内部に湿気がたまりやすい構造なので、常に炭火などで楽器を温めながら使う。和音を変えるためには指使いを変えるが、その指使いを覚えるのが難しいとされる。降り注ぐ光のような独特の音色を持つ。

コラム 足踏み式オルガンからハーモニカまで、息とリードの不思議な関係

ヨーロッパの街を訪ねると、その街の中心の広場には必ず教会があり、その教会の中には大きなパイプオルガンが設置されている。もちろんミサの時に使われるのだが、それ以外の時でも、その教会のオルガニスト（オルガン奏者）が練習をしたりするシーンに出会ったりする。壮大な空間の中に鳴り響くオルガンの音は、やはり荘厳と形容したくなる。

オルガンの起源はたいへんに古く、何かの動力を使って管に空気を送り込み、音を出す機構はギリシャ時代からあったとされる。中世に発達したヨーロッパのオルガンも原理は同じで、大きな送風機を使って、複数の管に空気を送り込み、それを鳴らす。パイプオルガンの最盛期はバロック時代である。その後、管とリード（金属性の薄い板）を組み合わせた足踏み式リードオルガンも開発されたが、これはいわゆる〈フリー・リード〉を持つすべての楽器〜アコーディオン、バンドネオン、ハーモニカ〜に共通する要素である。

管楽器、空気を使う楽器でも、実に巨大な物から手のひらに入ってしまうような小さな楽器まで、その種類は本当に多様だ。やはり、人間の呼吸は音楽の根本的な原理のひとつでもあり、吹く楽器は最も身近な存在かもしれない。

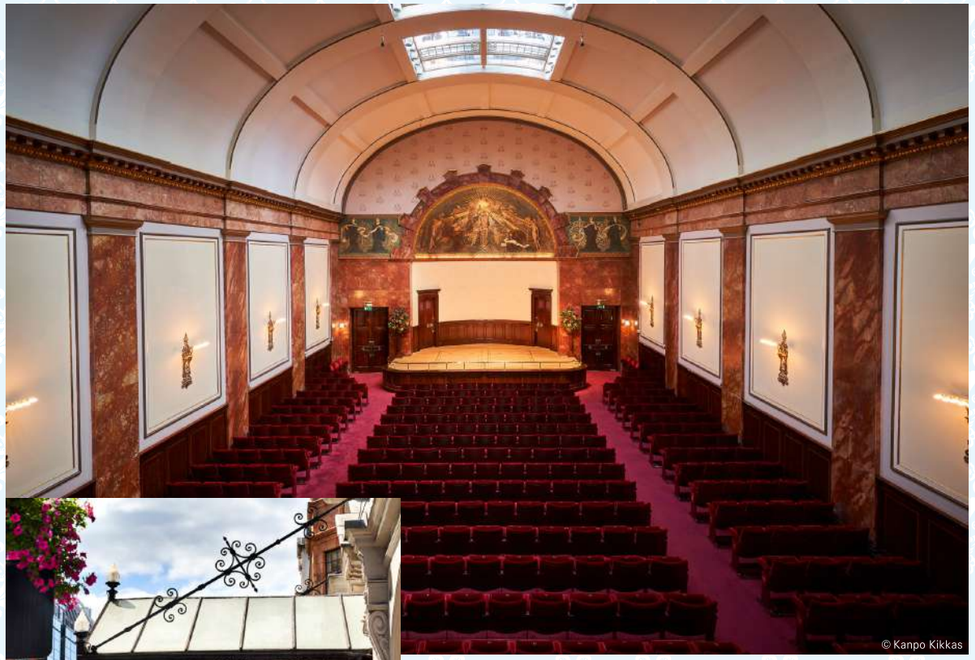
世界のコンクール Competition of World

ウィグモアホール国際弦楽四重奏コンクール

英国ロンドンの名門室内楽コンクールが4年ぶりに開催！

40年以上の伝統を誇るウィグモアホール国際弦楽四重奏コンクールが4月に開催された。コロナ禍でも懸命に活動を続ける弦楽四重奏団が集まる中、ロンドンの地で優勝に輝いたのは日本にも縁のあるアンサンブルだった。

河井 拓（大阪国際室内楽コンクール&フェスタ 総合プロデューサー）


© Kanpo Kikkas

© Kanpo Kikkas

弦楽四重奏コンクールを開催していたエヴィアンとミュンヘンを訪れ、開催の枠組みや費用についてレポートをまとめた上で、改めてメニューイン卿と相談。かくして卿を審査委員長に据えて、1979年に第1回ポーツマス国際弦楽四重奏コンクールが開催されるに至った。

その後1988年には開催都市をロンドンに移し（コンクール名も〝ロンドン〟に変更）、2010年には世紀を超えて演奏家に称賛されるウィグモアホールがメイン会場になった。この際に運営主体もウィグモアホールと融合し、現在の名称となる。

コンクール40年を超える歴史の中ではタカーチQ、ハーゲンQ、上海Q、ベルチャQ、カザルスQなど、現在のクラシック音楽界を牽引する弦楽四重奏団を入賞団体として輩出している。また（ウェブサイトによると）本コンクールに触発されてバンフやメルボルンで国際弦楽四重奏コンクールが始められていて、弦楽四重奏のキャリアを目指す若い音楽家にとっては、登竜門を増やしてくれたありがたい存在なのである。

ちなみに鶴の一声を発したメニューイン卿は、1990年代初頭に大阪国際室内楽コンクールが創設の相談に行った際にも、「室内楽（西洋音楽）のコンクールも良いけど、アジア独自の素晴らしい伝統音楽や民族楽器も紹介するのも大切ではないでしょうか。」と助言し、大阪にボーダーレスな室内楽フェスタを生み出している。兄弟とまでは言わないまでも、ウィグモアと大阪は卿を通して不思議な縁のあるコンクールなのである。

ユーディ・メニューイン卿が切り拓いた？室内楽コンクールの未来

今回で15回目を迎える本コンクールは室内楽というジャンルとしては歴史が深い。始まりは1970年代後半に遡り、発端の場所はロンドンでは無かった。軍港として栄えるポーツマス市が国際音楽コンクール開催を思案し、市の音楽祭に来演していたユーディ・メニューインに相談に向かった。ヴァイオリンコンクールを念頭に置いていた担当者を前に、メニューイン卿は突然、弦楽四重奏のすばらしさを語りだし、そのコンクールの重要性を説いた。

ユーディ・メニューイン

まだ室内楽のコンクールや普及活動がメジャーでは無かった時分、偉大なヴァイオリニストの斜め上からの切り返しに、担当者は（真面目な人だったんだな…）当時クールが創設の相談に行った際にも、「室内楽（西洋音楽）のコンクールも良いけど、アジア独自の素晴らしい伝統音楽や民族楽器も紹介するのも大切ではないでしょうか。」と助言し、大阪にボーダーレスな室内楽フェスタを生み出している。兄弟とまでは言わないまでも、ウィグモアと大阪は卿を通して不思議な縁のあるコンクールなのである。

室内楽の精鋭が挑戦するハードルの高い課題曲

コロナ禍による1年延期を経て開催された今年は、世界中の応募から予備審査で厳選された8団体が舞台に立った（コロナ禍を理由に、当初発表からは2団体がキャンセル）。4日間ある予選ラウンドの前半2日はギルドホール音楽演劇学校で行われ、延期の際に会場の確保が出来なかったため、後半2日間からウィグモアホールへ会場を移した。

1901年にドイツのピアノメーカーであるベヒシュタイン社によって建設された同ホールでは、イザイ、プロコフィエフ、ヒンデミット、ブリテンなど音楽史の偉大なアーティストが名演を残してきた歴史がある。今回参加した全ての団体が、このルネサンス様式の美しい内装と室内楽に適した豊かな響きの中で演奏出来たことは喜びだっただろう。

予選ラウンドは各団体が2日間かけてハイドン、モーツァルト、20世紀作品、そして指定作曲家サリー・ビーミッシュの「9つの断片」を演奏した。予選が終了した段階で、フランスのチャーリックQとアメリカのペリアQが残念ながら落選した。

セミファイナルでは、各団体は事前に19世紀ロマン派の作品から2曲を選択し、演奏前日にコンクール事務局からどちらを演奏するか指定される。実際に演奏するのは1曲だが、両曲とも十分に弾きこんでいないと対応できない仕組みだ。室内楽の場合はコンクールの後に直ぐにプロフェッショナル団体としての活動を期待されることがある。コンサートシーズンを通して主催者の要望に応えられる、充分な数のレパートリーを備えているかを測られるわけである。このラウンドが終わると、ドイツのマリオンQ、アメリカのリサスQとユリシーズQが次に進むことが出来なかった。近年の活躍が目覚ましい北米の弦楽四重奏団が、ファイナルラウンドに進出できない珍しいケースとなった。

© Ben Ealovega
第1位のレオンコロ・クァルテット

© Ben Ealovega
第2位のアデルフィ・クァルテット

© Ben Ealovega
第3位のアフィニティ・クァルテット

ファイナルラウンドでは、事前にベートーヴェンの中期（作品59）以降の作品から2曲を選択しておいて、前日に演奏曲を指定される。セミだけでなくファイナルラウンドでもこの方式を取るのは珍しく、参加団体は選択曲によって準備の難しさも大きく異なってくるだろう。

コンクールを制したのは…

最後まで駒を進めた3団体による渾身の演奏後に発表された結果は、1位がベルリンを拠点とするレオンコロQ（ファイナルの演奏は作品59-3）、2位はドイツとオーストリアで活動するアデルフィQ（同曲）、3位がオーストラリアを拠点としながらヨーロッパの指導陣の薫陶を受けるアフィニティQ（同作品-31）だった。セミファイナルまでの各課題曲の最優秀演奏賞も5つ全てがレオンコロQに送られたので、最終的な得票には大きな差がついたことが伺える。

優勝したレオンコロQのメンバーは、ヨナタン・昌貴・シュヴァルツ（Vn）、アメリー・コジマ・ヴァルナー（Vn）、近衛麻由（Va）、ルカス・実・シュヴァルツ（Vc）。シュヴァルツ兄弟は日本人の母を持ち、ヴィオラの近衛麻由は「日本のオーケストラの父」と呼ばれる近衛秀麿が曾祖父という、非常に日本に縁のある団体だった。コンクール後に話を聞いた際にも、弦楽四重奏団としてのキャリアを更に確立して、日本へのツアーも夢見ているとのことなので、是非とも日本で演奏を聴ける日を心待ちにしたい。

© Ben Ealovega
レオンコロ・クァルテットと審査委員陣

新型コロナウイルス禍では全ての音楽家が大きな影響を受けたが、特に室内楽団体は困難に晒された。個々の音楽家はロックダウン下でも自宅などで練習出来たが、人と会うことを許されない世界では、室内楽団体はリハーサルを出来ない日が長い間続いた。またオーケストラやオペラの様な基本的な財政基盤を持つのが難しい室内楽団体では財政事情も厳しく、経済的・精神的な理由から継続を断念した例もあったであろう。

今年に入ってようやく、世界は感染症と向き合いながら活動を再開できるようになってきた。今年はウィグモアに続き、ボルドー、バンフ、ミュンヘンと大きな室内楽コンクールが続き、来年5月には大阪も控えている。また若い音楽家が熱心に室内楽に取り組み、洗練されたサウンドを世界で披露してくれることを心から期待している。

NEWS

■ 2021（令和3）年度　第2回理事会

開　　催：3月4日付の決議の省略(定款35条)/新型コロナウイルス感染拡大防止のため
承認事項：①2022（令和4）年度事業計画書及び収支予算書
②2021（令和3）年度臨時評議員会の決議の省略による決議

■ 2021（令和3）年度　臨時評議員会

開　　催：3月15日付の決議の省略（定款19条）/新型コロナウイルス感染拡大防止のため
承認事項：2022（令和4）年度の事業計画書並びに収支予算書

■ 2022（令和4）年度　助成金交付予定事業

2022（令和4）年度の助成金交付事業を決定する選考委員会で厳正な審議が行われ、16件が2月15日（火）に選考されました。

①京都フィルハーモニー室内合奏団定期演奏会B～室内楽シリーズ
②月見の里室内楽アカデミー2022
③直方谷尾美術館第47,38,48,49,50回室内楽定期演奏会
④音楽が見える！第29,30,31,32回演奏会
⑤ピアノトリオMIYABIコンサートVol.2
⑥ミュージック・シェアリング訪問プログラム2022
⑦東京現音計画#17～ミュージシャンズセレクション6：神田佳子
⑧ピアノデュオ新崎姉妹リサイタル「ピアノアンサンブルの世界～2台ピアノデュオ&ピアノ連弾」
⑨Quartet Biennale YOKOHAMA2022
⑩スティーブン・イッサーリス公開 マスタークラス&曲目解題コンサート
⑪3才から親子で楽しめる室内楽コンサート！第2弾
⑫「フランク・ブリッジを集めて2022」室内楽演奏会
⑬神に愛された作曲家セザール・フランク――フランク生誕200年記念公演―
⑭鈴木舞×福原影美デュオ リサイタル
⑮大島莉紗&藤本紀子デュオ リサイタル
⑯TRIO VENTUS リサイタル及びアルバム制作事業

選考委員：委員長／藤田 由之（指揮・評論）
委　員／青澤 隆明（評論）
小野寺 昭爾（大阪フィルハーモニー協会）
沼野 雄司（桐朋学園大学・大学院 教授）
横原 千史（評論）
（敬称略、委員名50音順）

■ 2023（令和5）年度　助成金申請について

募集開始：2022年9月1日（木）
助成対象：2023年4月1日～2024年3月31日の期間に開催される事業
募集締切：2022年10月31日（月）
お問合せ：公益財団法人 日本室内楽振興財団事務局
電話　06-6947-2183
HP　http://www.jcmf.or.jp

公益財団法人 日本室内楽振興財団 支援企業

大阪ガス株式会社
関西電力株式会社

住友電気工業株式会社
ソニーグループ株式会社
株式会社東芝
日本電気株式会社
パナソニックホールディングス株式会社
株式会社日立製作所
富士通株式会社
ローム株式会社

株式会社関西みらい銀行
株式会社みずほ銀行
株式会社三井住友銀行
三井住友信託銀行株式会社
株式会社三菱UFJ銀行
株式会社りそな銀行

住友生命保険相互会社
大樹生命保険株式会社
東京海上日動火災保険株式会社
日本生命保険相互会社

野村證券株式会社

アサヒビール株式会社
サントリーホールディングス株式会社
ハウス食品グループ本社株式会社

東洋紡株式会社
株式会社ワコール

伊藤忠商事株式会社
岩谷産業株式会社
株式会社千趣会
三菱商事株式会社

川崎重工業株式会社
株式会社クボタ
ダイキン工業株式会社
日本製鉄株式会社
日立造船株式会社
三菱重工業株式会社

株式会社日建設計

株式会社大林組
鹿島建設株式会社
株式会社きんでん
株式会社鴻池組
清水建設株式会社
大成建設株式会社
大和ハウス工業株式会社
株式会社竹中工務店

非破壊検査株式会社

大塚製薬株式会社
住友化学株式会社
積水化学工業株式会社
武田薬品工業株式会社
日本ペイント株式会社

近畿日本鉄道株式会社
京阪電気鉄道株式会社
南海電気鉄道株式会社
西日本旅客鉄道株式会社
阪急電鉄株式会社
阪神電気鉄道株式会社

株式会社JTB
株式会社電通
株式会社ニュー・オータニ

KDDI株式会社
西日本電信電話株式会社

株式会社読売新聞大阪本社
株式会社読売新聞東京本社
日本テレビ放送網株式会社
讀賣テレビ放送株式会社

（関連業種別 五十音順）

奏メンバーズ”募集！

お手元に「奏」をはじめとした日本室内楽振興財団の情報が届く**“奏メンバーズ”募集中**！登録・配送料は無料です。
お申し込みは、日本室内楽振興財団ウェブサイトから！　http://www.jcmf.or.jp

編集・発行／公益財団法人 日本室内楽振興財団
〒540-8510　大阪市中央区城見1丁目3-50
TEL.06-6947-2183　FAX.06-6947-2198
URL　http://www.jcmf.or.jp
Vol.57　令和4年6月1日
編集：菱田義和
大丸敦子（まるこ）
表紙・13-14Pイラスト：Mié

一人の音楽家として、願う平和

ニューヨークを拠点に、アメリカで演奏活動をするケイコさん。
そこには、様々な人種、背景を持った演奏家が集い一つの音楽を奏でる、という日常があります。
今アメリカの音楽界では“Diversity（多様性）、Equity（公平性）、Inclusion（包摂）and Belonging（一体感）”というキーワードが盛んに言われているのだとか。
（詳しくは楽屋ばなしをご覧ください！）
みなさんもこのページで、すこーしだけ想いを巡らせてみてくださいね。

作・絵　徳永慶子

楽屋ばなし　「みんなちがって、みんないい」

今回は1コマで、ちょっとテイストの違うマンガですね。

はい！特にアメリカでは、様々な個性や文化、アイデンティティを持つ人達が平等に自己表現できる世界を目指す運動が盛んになってきているので、ちょっとこのあたりを伝えたくて…。

たしかに日本もSDGsが、日常生活の一部となってきた感覚がありますね。アメリカで盛んになってきているこの運動は、音楽界でも大事なトピックとして扱われていて、「音楽は、性別や人種、宗教に関係なく、世界中の誰にでも理解し、関わることができる言語」という認識が高まってきているので、この壮大な音楽の力を、より一層活かしていきたいと感じるようになりました！

なるほど！音楽家としての思いと、マンガ家？としての思いと、今の世界情勢がこの1コマのマンガになったということですね！

そうです！

音楽をはじめとして、様々なエンターテインメントが担う役割は、これからの世界にとって大きな存在となりますね！

ソウです！

お互い頑張りましょうね！

奏ですね！

ケイコさん、今回はSOUいうのは要らないと思いますよ…。

そのままお返しします（笑）

次回の楽屋ばなしの時には、平和な世界でありますように…。

©Arthur Moeller

とくながけいこ
徳永慶子
ヴァイオリニスト

元アタッカ・クァルテット第2ヴァイオリンとして、2011年第7回大阪国際室内楽コンクール第1部門第1位受賞、2020年グラミー賞受賞。現在はソリストとして、ニューヨークを拠点に活動。ヴァイオリニストとしての体験を綴ったイラスト・コミックを自身のInstagramで公開している。
Instagram:@keikonomanga